

プログラム番号	07004
---------	-------

平成19年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京大学 大学院新領域創成科学研究科		
②学長名	小宮山 宏		
③所在地	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	柏地区事務部新領域担当課・教務係長	
	担当者氏名	油井 聡	e-mailアドレス k-kyomu@kj.u-tokyo.ac.jp
	電話・FAX番号	電話:04-7136-4007 ファックス:04-7136-4019	
⑤ホームページ URL	<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html">http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html</a>		
⑥大学院在学留学生数	155人 (うち、国費留学生 63人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	サステナビリティ学教育プログラム修士課程
②プログラムの形態	修士課程 (2年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻
	(所在地) 〒277-8561 千葉県柏市柏の葉5-1-5
⑤連携大学・研究科・専攻名	東京大学・大学院新領域創成科学研究科・環境学研究系5専攻(自然環境学、環境システム学、人間環境学、社会文化環境学、国際協力学の各専攻)が連携
⑥受入れ学生数	20人 (うち研究留学生優先配置人数: 8人) (うち日本人学生数: 7-10人)
⑦担当教員数	合計 30人 (うち専任: 25人、兼任: 3人、非常勤: 2人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院新領域創成科学研究科・教授
	研究科長名 雨宮慶幸

### 【3. プログラムの内容】

#### 1. プログラムの概要

本プログラムは、持続可能な社会の実現のために国際的な視野を持って貢献できる人材の養成を目的とした修士プログラムであり、修了者には「修士（サステナビリティ学）」を授与する。すべての講義・演習は英語でおこなう。学生の選抜方法として、本プログラム修士課程学生募集要項による試験だけでなく、これとは別に定める書類選考による留学生受け入れのための選抜も実施する。また、多様な専門分野の出身者を受け入れる。

本プログラムは、持続可能な社会の構築を目指すために必要な基礎知識や基本概念を習得するだけでなく、さまざまなスキルを経験として身につけるための演習を重視した独自のカリキュラムを提供する。専門分野や文化的背景の異なる多様な学生が、演習などを通じて真剣にサステナビリティに関わる課題に取り組み、互いに刺激し合うことにより、実践に役立つ知識とスキルを身につけるものである。

#### 2. 目標および理念

社会的・文化的にも、経済的にも多様な国際社会において、またその一部を構成する地域社会において、持続可能な社会の構築をめざして活躍できる専門家の育成を目標とする。ここで言う持続可能な社会の構築とは、地球、社会、人といった異なる時空間スケールでの持続可能性の追究を目指すとともに、将来世代、次世代、現世代といった世代間の公平性（intergeneration equity）の確保、先進国と開発途上国といった南北格差の是正により、生態系を損なうことなく人々の生活の質（quality of life）を維持できるような新しいシステムを目指すものである。

そこで本プログラムでは、サステナビリティにかかわるさまざまな問題にかかわる知識を提供するのみではなく、それらの問題解決を前提にした新しいシステムの提案や多様な利害関係者（stakeholders）の間の相互理解のために必要なスキル（システム思考や合意形成）を身につけてもらうために、多様な学生・教員の間での相互刺激や具体的なケースに関する演習を重視した独自の教育手法を実施する。また、地球全体のサステナビリティの実現のためには、文化的・地理的地域特性を考慮した施策が必要との立場から、特にアジアにおける環境・社会の現状を強く意識した教育をおこなう。

#### 3. 学生の専門分野と選抜方法

本プログラムでは多様な専門分野の出身者を受け入れる。入学後は異なる専門分野出身の学生がともに学ぶことになる。各自の専門分野を基礎にしつつ、持続可能な社会を実現してゆくために必要な知識・スキル・感性を養うことが本プログラムの目的であり、近視眼的ではない総合的な状況理解能力や判断能力、多様な情報を処理し所定の目的のために再構築できる論理的な思考能力、サステナビリティという概念が包括する多様な要素に対する十分な理解度をもった人材を求める。また、文理融合、異分野交流がサステナビリティ学の基本にあり、1つの見方にとらわれない柔軟な考え方のできる人材を求める。

学生の選抜方法として、本学柏キャンパスにおいて実施する試験による選抜（受け入れ予定人員10名、日本人・外国人を含む）、国外に在住する外国人留学生受け入れのための書類選考による選抜（国費外国人留学生を優先配置特別プログラム、アジア開発銀行奨学金プログラムなど）を実施する。入学者の選抜については新領域創成科学研究科のホームページなどで詳細を公表する。

#### 4. 本プログラムで育てるべき人材、期待される職能、および、その活動の場

本プログラムで育てるべき人材とは、社会システム全般を見据え、サステナビリティにかかわる多様な要素に配慮しつつ、環境問題あるいはサステナビリティに関する問題の現場で、地域での問題解決を通じて地球全体のサステナビリティに貢献できる能力をもつ人材である。サステナビリティに関する問題は対症的に解決できるものではなく、様々な配慮にもとづく

合意形成により新しいシステムのあり方を提案してゆくことにより初めてよりよい方向に向かいうるものである。したがって、サステナビリティにかかわる多様な事柄を理解していることに加えて、分野間・地域間・世代間などで異なった言葉で語られるために生じるコミュニケーションギャップを埋めることに貢献し、さらに合意形成のための様々な手法を使えるスキルを持っている人材が望まれる。

## 5. 学位

「修士（サステナビリティ学）」の学位を与える。

## 6. カリキュラムの概要

### (1) 基本構成

本プログラムが提供する科目群は「知識概念習得型科目群」「実践型演習科目群」および「修士論文」からなる。

### (2) 知識・概念習得型科目群

「知識概念習得型科目群」では、サステナビリティ学教育のために、これまで環境学研究系で対象としてきた幅広い学術分野の中からサステナビリティ学という視点でとくに重要な分野を文系・理系を横断して再構成した科目に加えて、東京大学がサステナビリティ学の確立を目的として設立した「地球持続戦略研究イニシアチブ」との連携によりサステナビリティ学に必要な履修のための一貫したカリキュラムを提供する。これにより、持続可能な社会の構築を目指すために必要な基礎知識や基本概念を習得させる。

### (3) 実践型演習科目群

「実践型演習科目群」においては、単に知識のみの教育をおこなうだけではなく、サステナビリティに関するさまざまなスキルを経験として身につけるための演習を重視した独自のカリキュラムを提供する。総合的な状況判断を的確に行えるシステム思考の訓練、合意形成に必要なファシリテーションやネゴシエーションのスキルの獲得、国際的な場で責任を持って仕事に当たれる国際感覚と文化多様性への理解、国際協力や環境問題に関わるさまざまな事例学習を通じての広範な経験などが含まれる。専門分野や文化的背景の異なる多様な学生が、厳しい演習などを通じて真剣に課題に取り組み互いに刺激し合うことにより、実践に役立つ知識とスキルを身につけることが可能になる。

## 6. ホームページ

<http://www.sustainability.k.u-tokyo.ac.jp/>